

## 生涯学習部会 I

木 村 厚 子

(小松市役所)

### はじめに

生涯教育という考え方を、一人ひとりの生涯学習に結びつけるため、様々な研究や実践が盛んになってきた。地方自治体もその一群である。

いよいよ「生涯教育センター」が全国の各都道府県に出来る時代となった。

全国のどの市町村においても“生涯学習の拠点”としての「生涯学習センター」がある時代は目の前である。

しかし生涯教育の理念に基づいた、生涯学習活動の広がりとは、というと現状はそう甘くはない。時代に即し、住民のニーズにあった生涯学習。未来を展望した生涯学習のあり方がこれからはよりいっそう強く求められるであろう。

この生涯学習部会 I では、次のような五つの発表が行われた。

(1) 生涯学習プログラム編成の特徴—水戸市を事例として—

和田ふゆ子（都立教育研究所）

(2) 家庭・地域・学校の統合に関する調査研究—A市の環境と青少年を事例として—  
井上豊久（大阪大学）

(3) アメリカにおける研修会企画の方法と技術  
三浦清一郎（福岡教育大学）

(4) 生涯学習の実践と今後の課題—島根生涯教育研究会のあゆみ—  
○藤田富士夫（島根県立青年の家）  
○新開貴子（深海薬局）

(5) 生涯教育史の方法に関する一考察—大正・昭和初期民間成人教育運動を素材として—  
米山光儀（慶応義塾大学）  
司会は、白石克己氏（玉川大学）と木村が行った。以下司会者の一人として、発表についてのその内容の概略を説明し、日頃の自己の反省も含めまとめてみたい。

## 1. 生涯学習プログラム編成の特徴 ——水戸市を事例として——

ここでの学習プログラムとは、各講座ごとの「学習目標」「学習内容」「学習方法」「学習時間」「講師」「助言者名」等を言う。

水戸市内における27公民館、18民間事業所から成る事例をもとに、プログラム編成時における規定要因等を分析し、その特徴をつかみ、いくつかの型に分けられるかを明らかにすることをめざした研究であった。

結果は以下のとおりである。

図1 生涯学習プログラム養成の類型

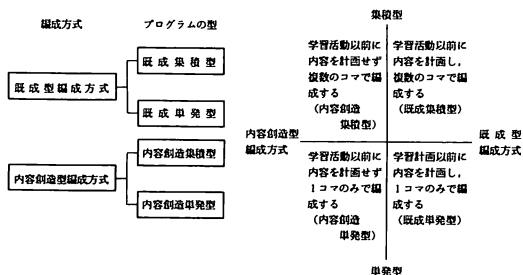


図2 生涯学習プログラムの分類結果

|                       |                 |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|-----------------------|-----------------|
| 内容創造<br>集積型<br>62.6 % | 既成集積型<br>19.9 % | 内容創造<br>集積型<br>15.0 % | 既成集積型<br>67.1 % |
| 内容創造<br>単発型<br>0 %    | 既成単発型<br>17.5 % | 内容創造<br>単発型<br>0 %    | 既成単発型<br>17.9 % |

このデータが、和田氏によってさらに積み重ねられ、まず水戸市の生涯教育の推進に役立つことを祈りたい。

## 2. 家庭・地域・学校の統合に関する調査研究

ここでは保護者の学習活動が子どもの行動に与える影響を保護者の所得別、学歴別に明らかにし、生涯教育の水平的統合の観点に立って基礎的考察を行うものであった。

その結果、保護者の学習活動が、いかにその子どもの行動に与える影響が大きいかが明らかになった。

ただし、ここで示されたのは「すこしでも」本を読んだり、勉強したりする子どもの割合に保護者の学習活動がどう影響するかである。

より細かく「本を読む」時間や「家で勉強する」時間に関して分析してみると、1時間以上本を読んだり、1時間以上家で勉強したりする場合には、保護者の学習活動の有無は子どもの行動にほとんど影響を及ぼしていない。しかも保護者の属性である所得別や学歴別では、長時間読書や学習活動を行っている子どもの場合、その割合では差がでないのである。

この基礎的考察は、尼崎市の青少年をとりまく生活環境の実態を明らかにし、環境改善への糸口をつかもうとしたものであった。

読書や学習活動を長時間行う子どもの行動のその要因の分析が、待たれるところである。

### 3. アメリカにおける研修企画の方法と技術

これはアメリカにおける研修会や学会の企画・運営に関し紹介したものである。

アメリカではプロが研修をデザインするという。学会を様々なサービス付きで企画・運営するのである。

様々な機能の無境界化を図り、学習ツアー・交流ツアー・快適サービス・同伴者や子どもたちのためのプログラムを用意し、家族サービスも行うのである。

それらは、また地域のリゾート地を含む地域経済の活性化につながるマーケティングとも深いつながりをもつ。

展示即売会では一村一品の大売り出し。ここでは地元の本屋も加わることになる。

娯楽プログラムにおける福引き、パーティ等、会長賞ではディナー付きもあるという。

このようにこれからの学会・研修会では真自面さばかりではなく一方で交流、娯楽、快適さが強く求められることになろう。

これは又、当日本生涯教育学会を企画運営する際の大きく参考になるものであろう。

一足とびに、プロが企画するところまで行かなくてもこの日本生涯教育学会の知恵の働かせ方で、もっと楽しく有意義な学会に出来そうに思えて来たから不思議である。

## 4. 生涯学習の実践と今後の課題

生涯教育に関心をよせる県民を結集して、1983・2・6、島根生涯教育研究会は設立された。

研究会の役割りは幅広く実践活動の方も、家庭教育、青少年教育、婦人教育と分野も広く、時代に対応して、高齢化、情報化、国際化と学習メニューも多岐にわたっている。「住民の住民による住民のための学習」をモットーとして、生涯教育の研究と学習の場を提供することがこの研究会のねらいであるとするれば、これも当然のことと言えよう。

しかし、今後の課題と方向を考えた場合、特に「島根生涯教育研究会」の展望をとらえたい。

何でも生涯教育、何でも生涯学習から、島根生涯教育研究会の独自性を求めたい。視点を定め、その問題を深く掘り下げていくことによって、この研究会の特性が育っていくように思う。

## 5. 生涯教育史の方法に関する一考察 ——大正・昭和初期民間成人教育運動を素材として——

生涯教育史研究の方法として、米山氏は「成人教育協会」、「自由大学」、「大阪労働学校」を具体的に取り上げ、生涯教育史はいかに構築されるべきかを考察した。

### (1) 生涯教育史研究の現状

まず現状では、生涯教育の歴史的研究の数はまだ多くなく、また、これまでの歴史的研究は社会教育の域を出ないことから、生涯教育史研究は生涯教育研究の一分野として、その地位は確立していないとされた。

### (3) 生涯教育史の起点

現在、生涯教育とは社会教育、学校教育、家庭教育を包含した考え方であること。また生涯にわたる教育は近代以前にも構想、実践されたことな

どから、日本における生涯教育史は近代学校制度が成立、普及し、かつ社会教育行政が本格的に展開する時期、すなわち1920年代を起点として構想されるべきであるとした。

#### (4) 生涯教育史の研究対象

それではその研究対象をどこに定めるか。

生涯教育が社会教育から出発したように、社会教育の分野を研究対象とすることから始めることが妥当であるとした。

しかし、その視点は、社会教育史研究とは異なったものが必要になることは当然である。

このことから、研究対象を官製の社会教育事業に求めるのではなく、民間の成人教育運動とした方がより効果的、魅力的であるとした。

#### (5) まとめ

民間成人教育運動が持つ、既成の教育体系批判、及び新しい教育体系の理念を中核に据えて見ること

これまでの教育史研究を踏まえ、これを生涯教育史として再構成するための積極的論議が必要であること。

以上を今後の課題とし、発表のまとめとした。

全て教育とは学校教育のみではなく、教育の主眼は人格養成にある。

教育は人間生活の全体と密接に結合するもので、人の生活がある至るところに教育はある。(石田新太郎『天化人育』)……学会資料⑩より

## さいごに

生涯教育を確立するためのもの、生涯学習実践に役立つものと、生涯学習部会Ⅰでの発表は、今年も多様であった。

しかし、いつも思うことはこれらの研究等が、今後の生涯学習社会の促進のため、その参考に資する第一歩として、たとえ学会に参加できなくても、どこのまちに住んでいても、会員ならば手に入れることが出来ること

に早くならないかということである。

国際化、高齢化、情報化に対応するためにも、研究成果をメディア化する。学習情報をメディア化する。これからの社会では、生涯学習を支える情報システムの形成こそが究極の課題であるとする。現代は情報の早さが1つの勝負なのである。

これが出来れば、たとえ生涯学習の拠点としての立派な建物がなくても、生涯学習機能のネットワーク化は図られ、それこそ、いつでも、どこでも、誰でもが、必要な情報が必要なときに手に入れることが出来る。

ただ、そのための条件整備として「指導者の養成」「優れた学習情報の整備」等が必要になってくるが。

1人ひとりが充実した人生を送ることを目指して、生涯にわたって行う学習を援助するため、どこのまちに住んでいても利用できる「学習情報のシステム化」こそが、生涯学習社会を確立するための1つの鍵であると信じる。

そこで、来年の学会では是非「学習情報システム部会」の独立を望むものである。